

明るく元気の出る町

平成11年12月1日発行・毎月1日 編集・発行／秋田県東由利町役場企画課

広報

ひがしゆり

HIGASHIYURI



東由利町

1999

12

NO.537

いよいよ師走

東由利町特産品フェア



町イメージ
キャラクター
「モウ太くん」



副知事秋田を語る

三町議員合同研修

十一月十日、有鄰館で三町議員合同研修が開催されました。この研修は岩城・大内・東由利町の議員の皆さんが情報交換等を通じて三町交流を深めようと実施しているもの。当日は板東久美子秋田県副知事が「二十一世紀を目前にして秋田県はいま」と題し、講演を行いました。



▲講演後副知事と質疑応答

研修はまず、阿部幸悦町長、阿部剛副議長による大内、岩城両町議員に対する歓迎のあいさつから始まりました。

その後、板東副知事が秋田県の現在の状況と対策などを中心にした講演を行いました。

板東副知事が本町に来町するのは今回が初めてです。ユーモアを交えた自己紹介の内容に三町の議員の皆さんは親しみを持ったようでした。

講演ではまず「少子化、高齢化に対し、危機感をもって取り組んでいかなければいけない」と、冷静に現在の秋田県が置かれている状況に触れ「各地域の力が問われる時代でもあり、地域間、自治体間競争が激しくなる」と今後の地域について語りました。

また、二十一世紀にむけて秋

新しいものを創造



▲板東副知事の講演

田県に必要な課題のひとつとして観光面に対し提案があり「かつてあった鉱山等の資源を生かし切れていない。新たな付加価値を見い出して新しいものを創造する必要がある」。そのためには「行政だけでなく、企業と県民が一体となり行動していくことが大切」とし、女性の立場として「秋田の女性の元気な力が今後重要になるのではないかと語りました。

講演後の質疑応答では、三町のそれぞれの代表議員が秋田県に対して感じている率直な思い、疑問、提案を寄せました。

農業委員会から建議書



▲委員長から建議書提出

東由利町農業委員会では、本町農業の発展のため、農業委員会等に関する法律第六条第三項の規定に基づき十一月十五日東由利町、町議会に建議書を提出しました。今回提出された建議事項は農業所得減等に対する緊急措置として四件です。

第十回議会臨時会 十一月五日招集

第十回議会臨時会が十一月五日に招集され、一般会計補正予算など三議案を原案どおり可決しました。おもな内容は次のとおり。

■議案第一号 財産（小型動力ポンプ付積載車）の取得について▼千八百五十八万五千円（株）タカギから四台購入。

■議案第二号 平成十一年度一般会計補正予算（第四号）四百六十八万五千円を増額し、歳入歳出総額を四十三億九千九百四十三万三千円としたもの。



愛情を持った農業を

東由利町農業者大会

「元気 やる気 根気で築こう明るい農業を」をテーマに、十一月十四日、秋田しんせい農協東由利町支所を会場に平成十一年度町農業者大会が開催されました。

当日は農業生産者など八十余名が参加、基調講演、パネルディスカッションなどを通じて町農業の現状と未来を語り合いました。

大会ではまず、「世界の稲作から見た日本の中山間地農業」と題し、県立大学短期大学部農業工学科真勢徹教授による講演が行われ、外側からの視点、長期的視点で考えた日本農業について語りました。

世界の稲作、主要穀物についての現状を話しながら「農業には今追風が吹いている。愛情を持つて展望ある農業を行うことが大切」と講演をまとめました。

午後からのパネルディスカッションでは、県立大学短期大学部生物生産学科北原克宣講師をコーディネーターに、本町大庭喜一郎氏はじめ隣接町など五人のパネリストが「たがやそう、



私たちの農業」東由利でもできる、生き生き農業」と題し、率直な思いを話し合いました。自己紹介の後、現在の悩み、また今後の夢を語りました。

北原氏は討論を通じて「生産性だけではなく生活の場としての集落機能が重要」「女性パワーをどうかすか」「家族、地域、農業に対する愛情」等が今後の農業の鍵を握るとし「女性が活躍できる場を」「この大会をきっかけに新しい展開を」と問題提起しました。

最後に、真勢氏が「二十一世紀は農業の時代。愛情をもって

農業に取り組みを」と総括し、会を閉じました。

▲基調講演講師・助言者

真勢徹氏（秋田県立大学短期大学部農業工学科教授）

▼コーディネーター

北原克宣氏（秋田県立大学短期大学部生物生産学科農業専攻講師）

▼パネリスト

大庭喜一郎氏（東由利町／農業）

佐藤隆氏（由利町／稲作作業受託組織、富農集団「百竈」）

東海林正彦氏（大内町／JA秋田しんせい養豚部会長、大内町認定農業者協議会副会長）

加藤美和子氏（大森町／大森町生活研究グループ会長、女性農業士）

伊藤圭子氏（雄物川町／「雄物川町ひまわり塾」）

町特産品を大いにアピール

東由利町特産品フェア



▲特産品フェアは終日にぎわった

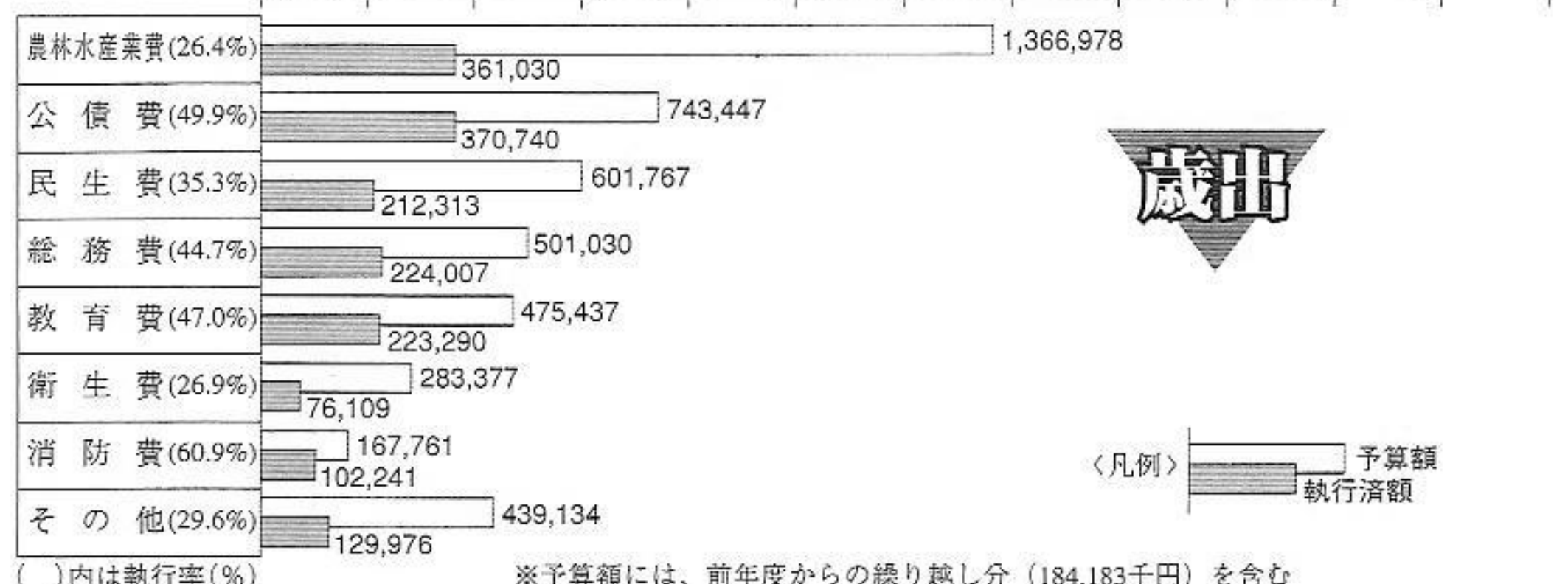
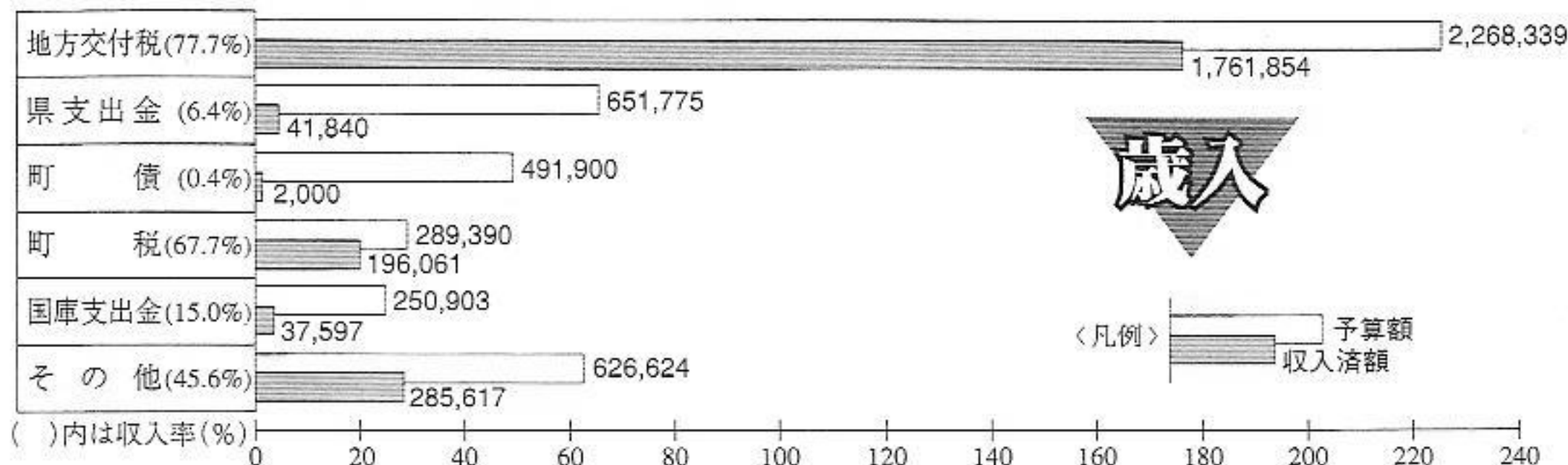
十一月二十一日、時折小雨降るぶれつそ前アーケード広場で東由利町特産品フェアが行われ、町内外から約千三百人の方々が訪れました。

会場では屋台村、イベントコーナー等を設け、町特産品（由利牛、フランス鴨、新米のだまっこもち、黄桜餅、鮎塩焼き、ずっぱり漬）の試食、また八塩そば手打実演が行われました。町外からのお客さんも多く、大いに町をアピールしました。

平成11年度上期財政状況 (4月1日～9月30日)

一般会計の執行状況 (平成11年9月30日現在)

予算額 45億7,893万1千円 収入済額 23億2,496万9千円 (50.8%) 未収入額 22億5,396万2千円 (49.2%)



※予算額には、前年度からの繰り越し分 (184,183千円) を含む

予算額 45億7,893万1千円 支出済額 16億9,970万6千円 (37.1%) 未支出額 28億7,922万5千円 (62.9%)

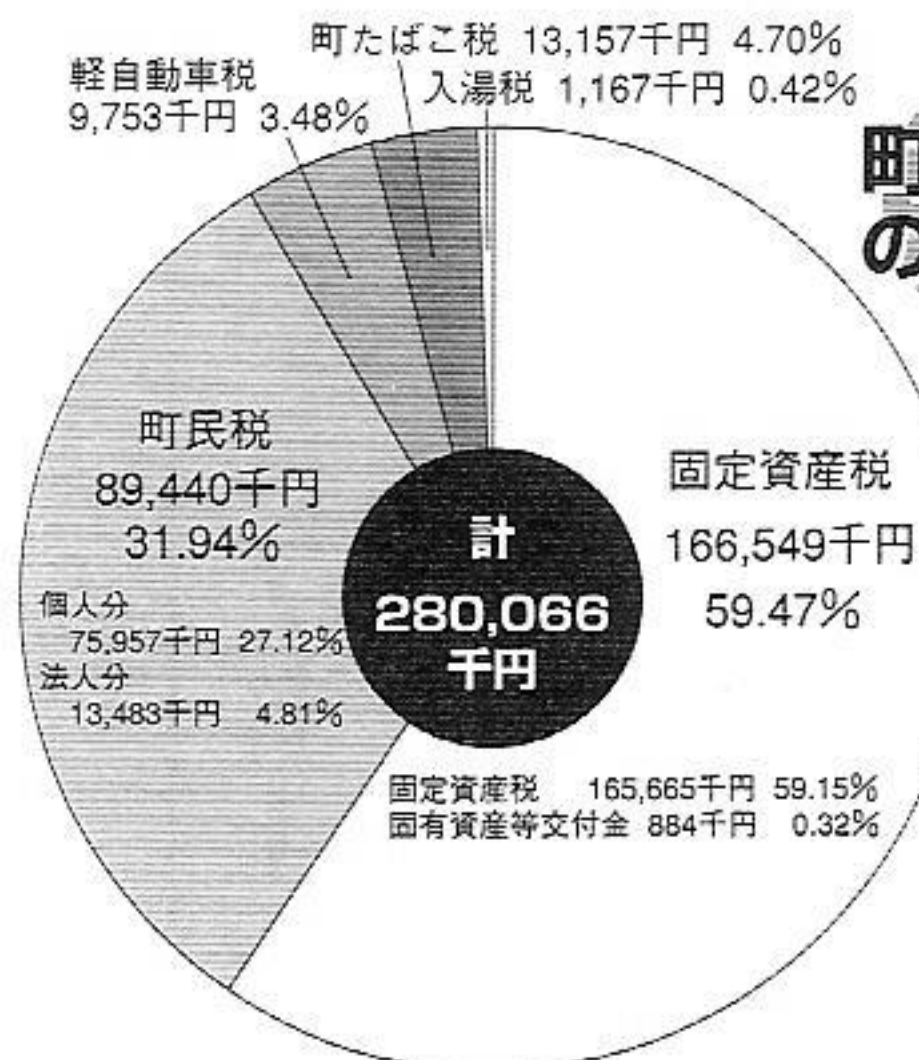
特別会計の執行状況 (単位：千円)

区分	予算現計	歳入		歳出	
		収入済額	収入率	支出済額	執行率
国民健康保険事業勘定特別会計	444,130	186,225	41.9%	151,224	34.0%
老人保健医療事業特別会計	691,105	293,077	42.4%	295,659	42.8%
簡易水道事業特別会計	501,678	75,869	15.1%	103,812	20.7%
農業集落排水事業特別会計	808,332	2,091	0.3%	163,296	20.2%
特別養護老人ホーム東光苑特別会計	277,587	91,075	32.8%	118,132	42.6%
大平スキー場運営費特別会計	18,702	31	0.2%	930	5.0%
合 計	2,741,534	648,368	23.6%	833,053	30.4%

*簡易水道事業特別会計の予算額には、前年度からの繰り越し分 (25,000千円) を含む。

基金の保有状況 (単位：千円)

基金の名称	合 計
財政調整基金	262,969
減債基金	253,292
庁舎建設基金	461,294
地域振興基金	53,942
地域福祉基金	140,000
ふるさと出会いの森基金	25,790
中山間地域活性化基金	10,844
中山間ふるさと水と土保全基金	6,272
畜産振興基金	24,154
土地開発基金	74,000
その他定額運用基金	129,165
合 計	1,441,722



町民負担の状況

お知らせします町家計簿

町では毎年二回町の家計簿とも言える町の財政事情を知っていただくため、財政状況を公表しています。今回は、平成十一年度上期の執行状況 (平成十一年九月三十日現在) を図表を中心にお知らせします。

東光苑不祥事の経緯とお詫び

東由利町長 阿部 幸悦

十一月十六日の秋田魁新報等の、東光苑の不祥事の報道に町民皆様にはさぞびつくりされたことと存じます。極めて残念な事態の発生に、管理監督をする立場として誠に申し訳なく心からお詫びを申し上げます。

東光苑も創立十四年目に入りますが、これまでの国・県の監査では「大変よい運営である…」と誉められておりましたので、まずは順調な施設運営ができていたと安心して自慢にしていたところでありました。

いつも町民の皆さんに申し上げておりますように東光苑はわが町の「長寿社会を寿ぐ」重要拠点であり、来年四月からの介護保険の拠点にもなることですので、老朽化が進んで来ました施設の大規模改修に関して県とも相談し、来年度からはこれにかからなければならぬと準備を進めていた矢先の不祥事でありました。

十一月四日の夕方、施設長から「苑が預かった預金通帳からの払い出し項目に説明がつかない箇所が発見され、出納を担当していた職員に質した結果、私がいし込みをしました申し訳ありません…」と言われた

との報告を受け、予測もしない事態に大変驚いたところでありました。直ちに預かっている全入所者の預金通帳の点検調査を指示しました結果、入所者三十五人の預金通帳に計千七百万円余に上る使途不明金が生じていることが判明しました。

この内部調査の結果を受け、緊急に開催していただきました町議会全員協議会に経緯を報告し、被害に遇った入所者への弁済策と全容の解明を急務にしたいと申し上げたところでもあります。議員の皆さんも一様に驚かれ、入所者から預かった預金通帳の取り扱いの管理手順や長期にわたるこの不祥事を何故発見できなかったのか等の質問を受け、チェック態勢を再点検することなどを約束したところでもあります。

また、今やるべきことは退所された方も含めた全体の同様使途不明金を調査することであり、内部の調査範囲を超える分は金融機関はじめ警察とも相談をしながら一日も早く全容を明らかにすること

である…と申し上げ、今なおその作業に取り組んでいるところであります。

東光苑の入所者はじめ家族会に緊急に集っていただき経緯を説明、皆さんの信頼を裏切る結果になったこと、全体を解明するまで時間をいただきたいこと、不正によって生じた不明金については責任をもつて弁済して行きたいと申し上げたことでもあります。

全職員にも、この不祥事について説明を行い、事実を冷静に受け止め公務員として期待されること

は何なのかを改めて考え、町民の信頼を裏切ることになったことを詫るとともに信頼回復のため全職員一丸となって一からやりなおそうと指示したところでもあります。

町民はもとより町内外からの東由利町に対する信頼を損ない、世間を大きく揺るがす不祥事となりましたことに対し、誠に申し訳なく心からお詫び申し上げます。

二度と再びこういう事態を起こさないために、事務態勢全般にわたって再点検を行い信頼回復のために全力を尽くして参りたいと存じます。

阿部町長は十一月十二日、特別養護老人ホーム「東光苑」で発生した元臨時職員による使途不明金事件について、全職員を役場会議室に集め、訓示を行い、一層の綱紀粛正の徹底を促しました。

この使途不明金事件は、元臨時職員が平成九年頃から今年までの約三年間にわたって、入居者二十数名の預金通帳から現金約千七百万円余を勝手に引き出して使い込みをしていたもの。

十一月四日に発覚後、町で調査、十一日にこの職員を解雇、同日、町議会全員協議会に報告、十二日に全職員に訓示、十五日までに入所者の家族で組織する家族会に事情を説明し謝罪しています。

使途不明金事件で町長訓示

綱紀粛正の徹底を

阿部町長は十一月十二日、特別養護老人ホーム「東光苑」で発生した元臨時職員による使途不明金事件について、全職員を役場会議室に集め、訓示を行い、一層の綱紀粛正の徹底を促しました。

この使途不明金事件は、元臨時職員が平成九年頃から今年までの約三年間にわたって、入居者二十数名の預金通帳から現金約千七百万円余を勝手に引き出して使い込みをしていたもの。

十一月四日に発覚後、町で調査、十一日にこの職員を解雇、同日、町議会全員協議会に報告、十二日に全職員に訓示、十五日までに入所者の家族で組織する家族会に事情を説明し謝罪しています。

町長訓示では事件発生の際、概要等を報告した後、「大変残念な出来事だが、職場の動揺を一刻も早く取り戻すとともに、公務員として職務を全うし、一層の努力をしてほしい。事実を事実として冷静に受け止め、全職員一致協力してこの不名誉を挽回するよう襟を正していきたい」、また同時に「事件が発覚してから、被害を受けた入居者、家族にお詫びしたが、また同時に町民に対し、深くお詫びし、イチから信頼回復をしていかなければならない」などと訓示しました。

なお、現在町では今回の事件を厳粛に受け止め、全容解明のための調査等を実施、再発防止のためチェック態勢の強化、現金の管理方法などの再点検などを行っています。

東光苑は昭和六十一年四月旧蔵小学校跡に開所。以来、町内外の身体等に不自由な面があり、家族の手では毎日の介護が難しい老人への生活援助を行う施設として利用されている町施設です。職員は臨時も含め三十人。二十四時間体制で介護を行っています。

入所者五十人のうち四十人が高齢者、うち十人は本荘市や由利郡内から入所しています。また同地内にはデイサービスセンター、在宅支援センター「いちよう館」なども設置されており、町福祉活動の中心的なエリアとして四月から始まる介護保険に備えています。

受給者と特定事業者の意識反映

一 アンケート依頼及び回収数

・受給者 三百二十六件 回答
数百七十八件（回答率五五％）
・特定事業者 九十九件 回答
数五十八件（回答率五九％）

二 受給者と特定事業者への 共通アンケート（白数字は受 給者、黒数字は特定事業者）

(1) 振興券は個人消費の拡大や地
域の活性化に役立ちましたか。

① どちらにも効果あった 四
一％ ② 地域活性化に効果あつ
た 一二％ ③ 個人消費の拡大
に効果があった 一二％ ④ ど
ちらにも効果はなかった 一
五％ ⑤ その他 一％
① どちらにも効果あった 一
九％ ② 地域活性化に効果あつ
た 二四％ ③ 個人消費の拡大
に効果があった 一二四％ ④ ど
ちらにも効果はなかった 三
三％

三 受給者に対するアンケート

(1) 振興券を使い終わった時期は
いつですか。

① 八月末 三五％ ② 七月末
三一％ ③ 五月末 二二％ ④
その他 一三％

(2) 使用にあたって心掛けたこと
は何ですか。

① 利用店がたまたま振興券を取
り扱っていた 三六％ ② 特典
やサービスのあつた店を選んだ
三三％ ③ 普段買えないものを
買おうと思った 二三％ ④ そ
の他 八％

(3) 振興券の主たる使用の目的は
何ですか。

① 日常生活費に使った 六
〇％ ② 普段買えないものを買
った 一二％ ③ 家族で分け合
って使った 一二％ ④ 新入
学、進学用品を買った 一一％
④ その他 五％

(4) 具体的な買い物・サービスの
内容は何か。

▼ 買い物

① 飲食料品 四五％ ② 衣料品
二〇％ ③ 酒 六％ ③ 雑貨
六％ ③ 給油 六％ ④ 電化製
品 六％ ⑤ その他 一一％
▼ サービス

① 理容・美容、温泉 三三％
② 外食・飲食 二二％ ③ 医療
一五％ ④ その他 三〇％

(5) 振興券により家計支出が変り
ましたか。

① 前年より少なくなった 四
六％ ② 前年と変わらない 四
三％ ③ 振興券の分だけ増えた
一一％

(6) 振興券を使用してみてどのよ
うに感じましたか。

① 町内だけでは買いたいものが
買えない 七四％ ② お金よ
り、保管・管理が不便 九％
③ その他 一七％

(7) 今回と同じ仕組みで振興券の
交付が実施されることをどう思
いますか。

① 賛成 八一％ ② 反対 一
九％

四 特定事業者に対するアンケ ート

(1) 振興券について特別な宣伝や
サービスを行いましたか。

① 特別な宣伝、サービスはしな
い 五五％ ② のぼりや旗な
どの設置 二四％ ③ チラシ
やDMを実施 一〇％ ④ 景
品・サービス券の実施 五％
④ セット商品などの販売
五％ ⑤ その他 一％

(2) 自店で利用された振興券の
数はどうでしたか。

① 思っていた程度であった
四一％ ② 思ったより少な
かった 四一％ ③ 思ったより
多かった 一八％

(3) 振興券の使用期間中の売上
は前年に比べてどうでしたか。

① 前年と変わらない 五八％
② 前年より減少した 二六％
③ 前年より伸びた 一六％

(4) 振興券は、売上に影響があ
りましたか。

① 影響はなかった 六〇％
② 何とも言えない 二七％
③ 影響があった 一三％

(5) 振興券の取り扱い手数料をど
のように感じましたか。

① 面倒であった 五〇％ ②
面倒とは思わなかった 五

地域振興券 アンケート

個人消費と地域経済の活性化を図ることを目的に交付された「地域
振興券」。9月9日をもって半年間の使用期間が終了しました。

町ではこの振興券について、使用期間終了後、町内不特定の受給者、
特定事業者に対してアンケート調査を実施しましたが、町内の皆さんの
振興券に対する意識が反映された結果になりました。



〇%

(6)換金にかかる時間はどうでしたか。

①特に営業に支障はなかった
七十七% ②仕入や資金繰りに影響があった 一八% ③その他 五%

(7)今回と同じ仕組みで振興券の交付が実施されることをどう思いますか。

①賛成 四七% ②反対 五三%

■地域振興券についての意見

- ・またやってほしい。本当にありがたい。
- ・地域振興券が町内に限定されている以上、町内の消費拡大には役立つと思うが、必ずしも活性化に役立つとは思えない。
- ・色々な面で制約が多すぎて効果なし。税金の負担が増えただけなのでは。
- ・全国民もしくは、全納税者が恩恵を受けられる形にすべき。
- ・一五歳未満は当然だが、六五歳以上の老人の場合、どの

程度までの人が対象なのか不公平感がある。

・交付に不公平感がないような実施を。六十五歳以上の基準に不満の声が多かった。八十歳以上の老人には全員にあげてほしい。

・他の市町村でも使用できれば。

・使用期限短かい。時期が正月頃の方がもっとよかったのでは。

・一家で四人もらうところ、老人がいてももらえないところなどがあり、不満。

・収入のある人もない人も同じなのはちよつと問題があるように感じる。次に交付されることがあれば、家族の人数分で交付してもらいたい。

・年二回頂ければなお一層ありがたい。

・前からほしい物が買えて助かった。

・地域の購買増に直結するようには思えるが実は商品券分の現金をそのまま手元に残しておく人が多かったのではない。

・市部への資金の流出にも歯止めはかからなかったと思う。

年末年始の少年非行および犯罪被害の防止

あやしげな行動を見たら 勇気をもって一言注意!

年末年始は、クリスマスや正月といった解放感から少年が非行に走りやすい時期です。
犯罪を未然に防ぐには、少年のあやしげな行動には勇気をもって一言かけ、相談機関に連絡するようにしてください。

「おはよう」だけでもあいさつが大切

一人で悩まず「少年サポートセンター」へ相談を

近年、少年による強盗、殺人などの凶悪な事件が増えています。このような重大な非行を防止するために、警察の少年係警察官、少年補導員などが、地域の少年警察ボランティアと協力して盛り場などでの補導活動を強化しています。

警察での取り締まりが行われている一方で、少年非行を防ぐ

には、家庭生活の雰囲気が大きく影響します。家族がそろって機会を多くつくって、当り前のことと思われている「おはよう」「いただきます」などの基本的なあいさつを、いつもかわすようにすることが大切です。

非行問題は、自分や家族が抱え込んで悩んでしまうケースが多いようです。そのようなときは、各都道府県警察本部内にある「少年サポートセンター」にご相談ください。
不良行為をした少年やその家族に対して専門的な支援活動の充実を図るために、指導などを行う組織です。



介護保険情報

第五回 介護サービス計画

どのような計画が立てられるのか

「要介護認定」の申請から原則三十日以内に、要介護度認定の決定が申請者に通知されます。その結果をもとに介護度に応じた介護サービス計画（ケアプラン）を作成することになります。作成するにあたっては、本人または介護支援専門員（ケアマネージャー）に依頼して作成することになります。それでは、実際のどのようなサービス利用計画が立てられるか事例で紹介します。

要介護状態区分			介護に要する1日の推計時間
要支援状態	だいたい自立しているが生活管理能力が低下し、時々支援が必要	虚弱	25分以上30分未満 またはリハビリなどに10分
介護度1	だいたい自立しているが一部介助・支援が必要	軽度	30分以上50分未満
介護度2	食事・排泄・着脱はなんとかできるが排泄は一部介助が必要	中度	50分以上70分未満
介護度3	食事・排泄・着脱のいずれも一部介助が必要	重度	70分以上90分未満
介護度4	重度の痴呆状態で食事・排泄・着脱いずれも全面的に介助が必要	最重度	90分以上110分未満
介護度5	寝返りできない状態で全面的に介助が必要。及び寝たきりの状態	過酷	110分以上

要介護3のサービス利用例

・施設への通所サービスに重点をおいた場合（通所型）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	通所介護 または 訪問介護	訪問介護	通所介護 または 訪問介護	訪問介護	通所介護 または 訪問介護	訪問介護	
午後	通所リハビリテーション		通所リハビリテーション		通所リハビリテーション		
	訪問介護 (巡回型)	訪問介護 (巡回型)	訪問介護 (巡回型)	訪問介護 (巡回型)	訪問介護 (巡回型)	訪問介護 (巡回型)	訪問介護 (巡回型)

短期入所 6か月に3週

福祉用具貸与 車いす、特殊寝台、マットレス

・自宅への訪問サービスに重点をおいた場合（訪問型）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	訪問介護	通所介護 または 訪問介護	訪問介護	訪問介護	通所介護 または 訪問介護	訪問介護	訪問介護
午後		通所リハビリテーション			通所リハビリテーション		
	訪問介護 (巡回型)	訪問介護 (巡回型)	訪問介護 (巡回型)	訪問介護 (巡回型)	訪問介護 (巡回型)	訪問介護 (巡回型)	訪問介護 (巡回型)

短期入所 6か月に3週

福祉用具貸与 車いす、特殊寝台、マットレス

要介護（要支援）認定の基準

どのくらい介護が必要か、必要度に応じて6段階の要介護度に分けたものです。

介護支援専門員（ケアマネージャー）とは

介護サービスをうける人からの相談にのったり、自宅や施設でのサービスが適切に受けられるように、居住サービス事業者や介護保険施設などと連絡調整をする人で、認定に必要な訪問調査をしたり、介護サービス計画をつくったりします。町では、在宅介護支援センター（いちょう館）に配置されることになります。

健康で安心した生活を



▲小松先生の講演が行われた

福祉と健康のつどい

十一月十八日、有鄰館で福祉と健康のつどいが行われ、二百五十余名が参加、健康で安心した生活をおくるために何が必要かを考えました。

来賓あいさつの後、老方出身、市立秋田総合病院の小松眞史先生が「ガンで死なないための生活習慣」と題した講演を行いました。煙草、酒、食生活とガンの関係についてなど身近な話題の講演内容に出席者は聞き入っていました。

講演の後、介護保険を分かりやすく理解してもらおうと、役場福祉課、社会福祉協議会が合同で寸劇を行いました。笑いの中に必要な情報を交えた内容に参加者たちは介護保険制度について改めて考えていました。



▲寸劇は笑いにあふれた

小春日和の文化祭典

秋まつり99

十月三十、三十一日の両日、健康増進センターを主会場に秋まつり99が行われ、約九千人の人で賑いました。秋まつりは町民の皆さんが日頃取り組んでいる生産や各種文化活動の成果を展示、発表しあうと共に、町民の交流の場にしようとする毎年行われているものです。

秋まつりでは健康増進センター、朋楽荘、有鄰館、町民プールでそれぞれシルバー創作展、生涯学習作品展、各団体による日頃の力作の数々が展示され、両日にわたり来場者を楽しませました。昨年時代即した

展示方法の工夫、アトラクション等が追加されています。三十一日には小倉出身農学博士の遠藤章氏による「文化講演会」が行われました。

遠藤氏は町功労者で、発見したコレステロール低下の特効薬「スタチン」は世界百カ国以上の国々で六千八百万人以上の患者の治療に役立っている薬でもあります。昭和六十二年には世界的権威であるウィーランド賞を受賞されるなど国内外で活躍されています。当日は「故郷を巣だつて五十年」と題した講演を行いました。昔話などを交えた興味深い話に、参加者は聞き入っていました。

その他にも有鄰館で町両保育園が合同で行った「こども祭り」、商工会婦人部の「元氣の出る食堂」、健康増進センター

▲健康増進センターには農産物の力作が勢ぞろい

園が合同で行った「こども祭り」、商工会婦人部の「元氣の出る食堂」、健康増進センター



▲キャラクターショーは子どもに人気



▲手芸作品に見入る皆さん



▲遠藤章氏の文化講演会

秋まつり授賞者一覧

秋まつりの受賞者は次のとおり(敬称略)

- 一般展示物・町長賞
- ▼畑作部門／サヤエンドウ／佐藤敬一(黒淵)
- ▼花卉部門／バラ／佐々木精人(大琴)
- ▼果実部門／リンゴ／小松和美(新町)
- ▼農産加工部門／漬物4点セット／JA女性部特産物振興会
- ▼葉たばこ部門／葉たばこ／遠藤正(館合新田)
- ▼手芸部門／バイヤス花火／佐藤イデ(寺田)
- ▼牛乳料理部門／チンゲン菜とえびのミルク煮／寺田女性部
- ▼野の花部門／玉米フレッシュミセス

●シルバー創作展・金賞

▼野菜の部

○ネギ／小野豊二郎(蔵壮寿会) ○白菜／小松茂(老方敬寿会) ○大根／高橋サダヨ(館合第三寿会) ○人参／遠藤ヨコ(法内生寿会) ○キャベツ／小野作平(田代福寿会)

▼工芸品の部

○こしかけ／鈴木テツノ(袖山長寿会)

▼盆栽、菊の部

○菊／佐藤実(黒淵福寿会)、同／佐々木正隆(宿紅葉会)

▼果実酒、食品加工の部

○茄子漬／小野サダミ(館合第三寿会) ○栗甘露煮／小松敏子(館合第一寿会) ○梅酒／高橋新一(館合第二寿会)

▼和服の部

○拾／長谷山フサ子(館合第二寿会)

▼造花、手芸の部

○手提げ袋／小松美代子(宿紅葉会) ○木炭果実／佐々木儀悦(老方敬寿会)

▼ちぎり絵、はり絵の部

○つわぶき／渡辺アサ子(館合第三寿会)

▼果実、穀類の部

○りんご(ふじ)／小松茂(老方敬寿会)

▼わら工芸品の部

○ワラゲラ／高橋次男(館合第三寿会)

「地域の学校」発展期待

東中創立30周年記念式典

「豊かな心を持ち、自ら学び続けるたくましい生徒の育成」を学校教育目標の一つとして掲げ、町内唯一の中学校として三千余名の卒業生を送り出した東由利中学校がこの度三十周年を迎えました。



十月二十四日、東由利中学校体育館に於いて創立三十周年記念式典が挙行、生徒、関係者など三百余名が出席、同校の伝統と歴史を振り返りました。

この記念式典は校旗の新調、テレホンカード作成、大運動会、鳥海登山など同校が取り組んできた三十周年記念の総仕上げの事業でもあります。

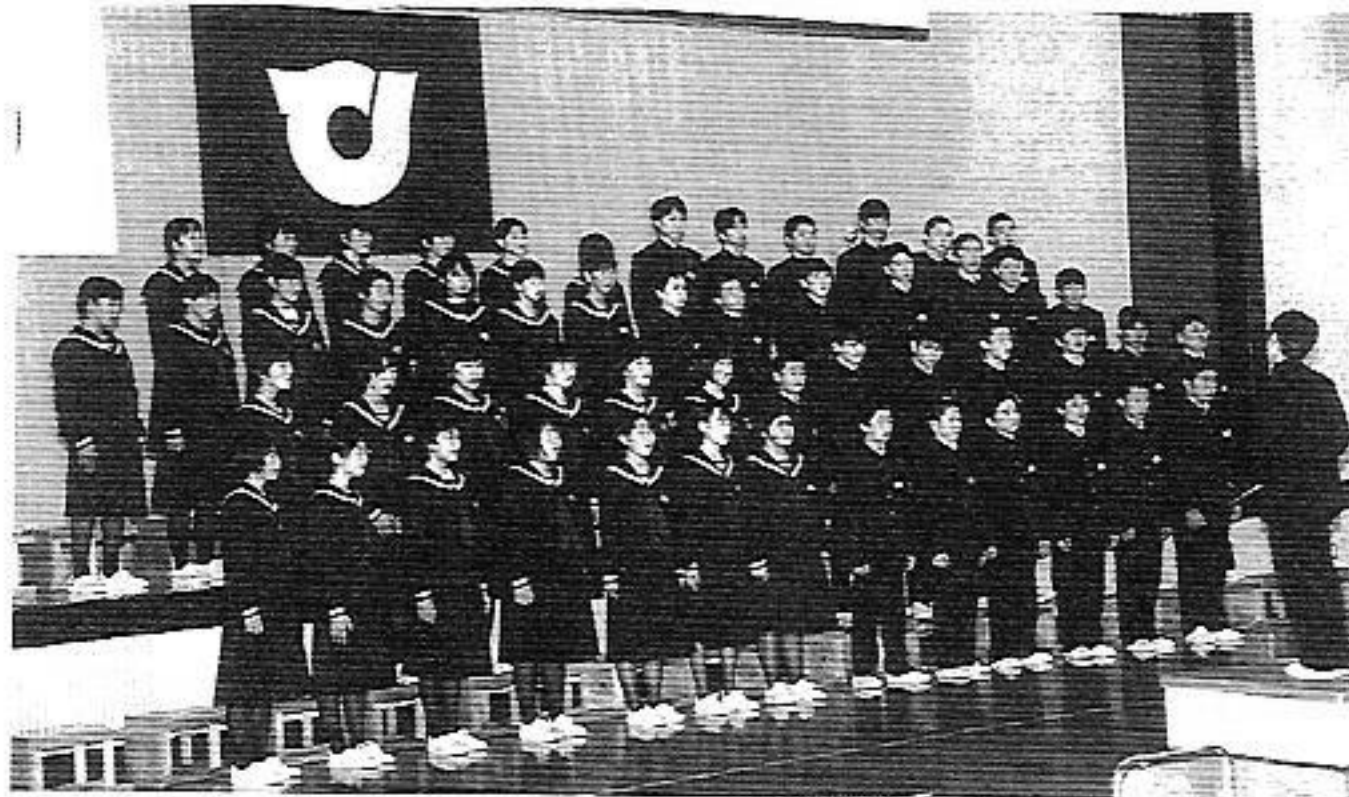
式典では、伊東一夫実行委員長が同校の歴史、現状にふれながら「生徒自身が主役という意識で、夢にむかって一歩一歩歩いていってほしい」とあいさつ。また小川征司校長が三十年という節目を迎えるにあたり「学校、保護者、地域社会が一体となりますます大きく飛躍してほしい」など新たな門出にあたっての意気込みを生徒、関係者に話しました。



▲記念オブジェ「旅立ちの日に」

昭和四十四年、下郷、玉米両中学校が名目統合し、東由利中学校が発足して以来三十年。統合により各学校が持つ歴史や伝統が融合し発展を続けた同中の歴史は、町村合併により一つになった後の東由利町の歴史にも通じます。

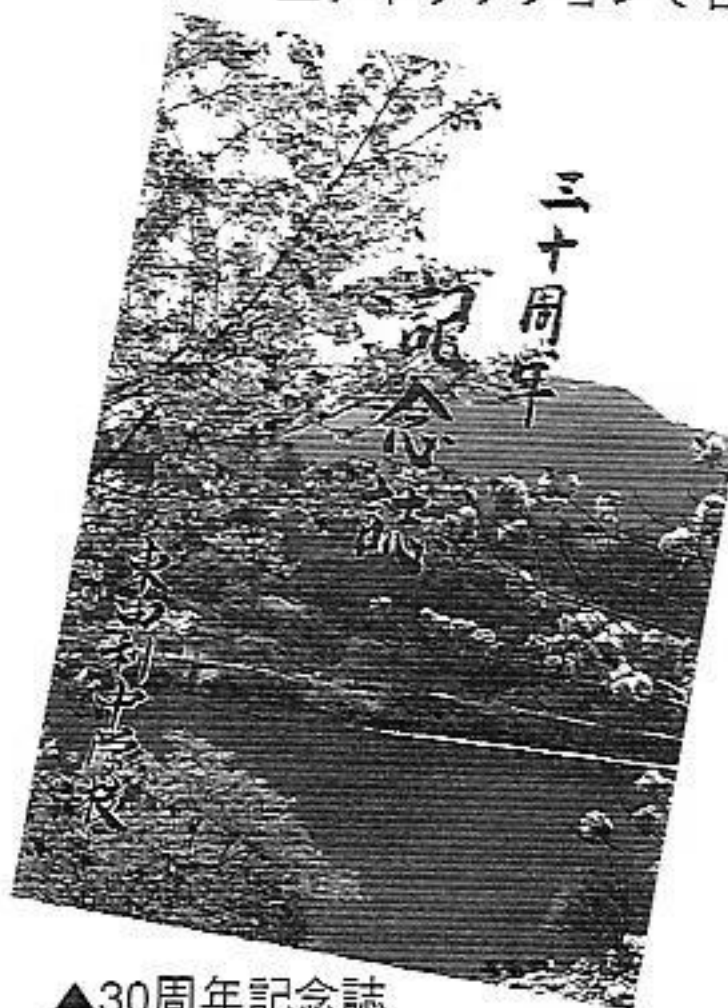
「さわやかに朝風かおり・・・」。この校歌とともに歩み続ける同校。二十一世紀をむかえるにあたり、少子化、人口減など様々な社会的状況が変化し続けますが、「地域の学校」として今後益々の発展を期待したいものです。



▲アトラクションで各学年の合唱

東中30年の歩み
昭和44年3月20日 校旗樹立式
東由利村立下郷・玉米中学校廃校式
昭和44年4月1日 東由利村立東由利中学校創立
下郷、玉米校舎に分かれ授業を行う
昭和45年2月27日 校歌、校章制定
昭和46年10月19日 新校舎落成式 新校舎へ移転
昭和46年11月5日 寄宿舎開設

昭和47年3月15日 校旗樹立式
昭和49年4月1日 町制施行により東由利町立東由利中学校と改称
昭和54年10月30日 創立10周年記念式典、校門除幕式
昭和57年11月20日 東中職員会「台山会」発足
昭和60年11月1日 食堂開設 給食開始
昭和62年10月13日 パソコン室完成
平成元年10月22日 創立20周年記念式典
平成11年8月25日 プール解体工事完了
平成11年10月24日 創立30周年記念式典、校旗新調



▲30周年記念誌

続・畜魂

～つれづれの記

第7話「家畜市場風景」

鈴木龍太郎・文

由利家畜市場は山ノ神という男どもに、夏は涼しいが冬は身も凍るほど寒い。普段は静かな広い構内が、日には夏は作業服、冬は防寒服であるが足はいつも長靴の人々と牛たちで早朝より混雑する。家畜運搬車の音、興奮して鳴く子牛、声高な男たち、連絡をがなりたてるスピーカー、検査に行き来する人と牛、最後の愛情を込めて子牛に刷毛掛けする婦人、通路の傍で服する人、あちこちにたむろして情報交換や打ち合わせをする仲間たち、牛道具移動販売車や天幕掛けの食堂にもたくさんの客がいて、開場前の市場は喧騒を極める。

農家の皆さんは今日の価格はどうだろう、高値がつけばよいが、との不安と期待、それに子牛と別れる淋しさもあり、気持ち落ち着かない。そのせいか誰もが急ぎ足で歩く。

◎おばあさん頑張る

古い話であるが、昭和六十二年十二月市場にD集落の老夫婦が兄を一郎、弟を二郎と名付けた双子の子牛を出した。

一郎牛が先に糞にかけられ、高値

がついた。次に二郎牛であるが値を示す電光掲示板の数字が遅々として上がらない。

子牛から少し離れていたおばあさん、たまりかねたか、掲示板を両手で大きく煽り立てながら「それっ頑張れ、兄牛に負けるな」と叫んだ。その姿が購買者の笑いを誘い、値が少し上がった。するとおばあさん「それっ、もっと頑張れ」となおも掲示板と購買者席を煽り立てる。そのユーモラスな格好に場内は大爆笑。「おばあさんも頑張れ」と声も飛び、値段もぐんぐんと上がり兄牛と同じ位で止まった。おばあさんは嬉しそうに購買者席にお辞儀をした。

そのおばあさんは今も元気で割蹄師でもあるおじいさんと仲良く牛を飼っている。

◎高校生

平成九年春の市場でその子牛の糞順になつたら、肩目秀麗な数人の少年が購買者席前に整列し「私どもは西目高校の生徒です。一生懸命育てた牛です。よろしくお願いします」ときっちりした態度、口調で挨拶した。

糞人の斎藤稔さん（現JA畜産課長補佐）も「購買者の皆さん、後継者のため頑張ってください」と応援して始まった糞で高値がついた。少年たちは「有難うございました」と再び規律正しく一礼し場内の拍手を受け、去っていったが、その真剣で純粋な姿に私はなぜか目頭が熱くなった。

あの生徒たちは今どうしているだろうか。

◎辛かった日々

平成二年十二月市場での東由利子牛の平均は約五〇万円だったが、その後は牛肉輸入自由化をきっかけに価格は下降の一途をたどった。

特に安値の続いた五年から七年迄の市場は切なかった。希望のもてる情報一つもなく、糞が始まる。一頭毎に「せめて三〇万を突破してくれ」と祈る気持ちで見つめる掲示板の数字は二十八万円位で止まる。ため息が聞こえる。人々の顔は暗い。「なぜこんなに安いんだ」「牛飼いはやめた」等の怒声を聞くのも辛かったが、視線を落とし、黙りこくって力なげに歩くお年寄りやお母さんを見るのはもっと辛く、何もしてやれぬ自分の無力を嘆く日々であった。

この時、阿部幸悦町長は「畜産は今が勝負だ」と檄を飛ばした。役場とJA東由利（当時）は連携して対策をたてた。役場の石渡博澄さん（当時畜産係長）が市場毎に価格の分析表を作成配布して喜ばれたものこの頃と記憶している。

そして一番は飼育者の皆さんだ。あの苦しさによく耐え、よく乗り切った。農業の持つ底力を見た思いである。

価格は七年秋より回復し、今年十一月市場の子牛の平均は約四〇万円であった。

林業だより

めぐみの森

十月下旬に当町林業懇話会と西目町林業研究会との交流会を持つ機会があり、西目町の森林巡りを行いました。西目町は、県内でも屈指の町有林を所有し、過去には町予算を森林の伐採収入で支えていたと云われます。

町有林は県道冬師西目線沿いに広がっていて、そのほば中央に林業センターがあり、そこに「めぐみの森」記念碑が建っています。

その碑文には「本町林業振興の役割を担ってきた林業セ

ンター周辺のスギ林の一部、樹齢三十七年から五十七年九・一二ヘクタールを将来に亘っても伐採することなく、自然を愛し、緑を育む町民の心の醸成を図り、本町の自然に恵まれた緑豊かな郷土を将来に継承するとともに、水資源のかん養、環境保全など広く森林の大切さを提唱することを目的に「めぐみの森」として設置したものである」と書かれています。

名称は町民から募集したもので、別名「不伐の森」とも呼んでいます。

（町林業懇話会会長 佐藤恒悦氏）

東由利・成立

区分	頭数	平均体重	平均価格	Kg当単価
去勢	22	302kg	471,402	1,482
雌	20	270kg	319,778	1,127
合計	42	287kg	399,200	1,312

●最高金額 去勢 613,200 美津福 北国7の8 紋次郎
●最高金額 雌 477,750 北国7の8 高栄 糸光

十一月家畜市場

径級	単価（石）	備考
直材30cm上	5,300～6,000円	65年生上A玉
24～28cm	4,800～5,000円	
14～22cm	4,500～4,600円	
13cm下	2,400～2,600円	
曲り材	2,000～2,800円	

全体的に下落傾向。量産工場の手当てにより14～22cmはほぼ完売。普通材で4,500円、乾燥材で4,600円と価格差が小さく生産側は苦しい。

木材共販市況

（平成十一年十一月・平均価格）
四五年生から五五年生

新たな気持ちで児童教育

みどり保育園40周年式典

十一月七日、みどり保育園で創立四十周年記念式典が行われ、保護者、職員、来賓百余名が出席しました。



▲関係者が出席、みどり保育園40周年を祝った

式典では新しく作られた園歌が披露。引き続き遠藤繁理事長、渡辺要実行委員長がそれぞれ地域における園の役割、現在の園児についてあいさつ。その後、今野登和子園長が、地域に支えられながら現在に至ったことに感謝しつつ「園には二回節目があった。一つは社会福祉法人指定を受けたこと、もう一つは現在地に園舎が移転したこと」など園の四十年間の歩みを報告。「地域や自然とふれあい成長することが大切。今後も児童教育に取り組みたい」と新たな気持ちで誓っていました。



▲園児たちのアトラクション

同園は昭和三十四年六月、旧玉米村役場庁舎を改造し、みどり保育園としたところから始まっています。昭和五十一年には社会福祉法人玉米福祉会として指定、同六十一年に新園舎で保育開始、今回の創立四十周年を迎えたものです。式典後のアトラクションではビデオによる記念植樹の模様、園児のゆうぎ披露などが行われました。少子化が全国的に進行していますが、より充実した幼児教育の場として園の役割が期待されます。

今年の除雪も円滑に安全で

除雪安全祈願祭、連絡会議

十一月十六日、役場車庫で除雪安全祈願祭が、また朋楽荘で除雪連絡会議がそれぞれ行われました。



▲活発な意見交換が行われた除雪会議

祈願祭では除雪を担当するオペレーター等関係者四十余名が冬期間の安全を祈願しました。

午後からの会議では、本年度除雪計画を中心に、町関係者、除雪オペレーター、各流雪溝利用組合代表等が出席、除雪に対する意見交換を行いました。今年除雪する道路の総延長は一四一・六キロ。円滑な除雪のため皆さんのご協力を願います。

寄宿舎生活で思い出を

寄宿舎入舎式

十一月五日、東中寄宿舎において入舎式が行われました。今年入舎した生徒は合計で二十二名。加藤大喜講師を中心に来年三月まで共同生活を送ります。



▲寮長・副寮長の任命書を受け取った二人

入舎式では小川征司校長が「親元を離れた生活で大変だが、それ乗り越えた時大きな力になる。また学年を超え仲間を作り、よい思い出を作ってほしい」とあいさつ。また、三年の佐藤孝太寮長が力強く誓いの言葉を述べました。長い冬、健康で過ごしてほしいものです。

石綿さんが食糧庁長官賞



▲賞状を手喜びの石綿さん（左）

秋田県産米品評会

近年になく下位等級米比率が高くなった今年の稲作でしたが、十一月五日行われた第十八回秋田県産米品評会褒賞授与式で、石綿孝悦さん（大台）が出品したあきたこまちが県産米改良協会の最優秀賞、また同時に食糧庁長官賞を受賞しました。この品評会にはあきたこまち五十三点をはじめ、合計百十六点の玄米の出品がありました。一等米比率が極めて低い中、石綿さんの玄米は充実度、光沢等の形質、整粒歩合等が特に優秀と認められたものです。

近隣町、自慢の味を交換



▲出席者は秋の夜長を楽しんだ

フランス鴨パーティー

十一月二十日、町フランス鴨生産組合が主催する第六回フランス鴨ワインパーティーが有鄰館で行われ、二百余名が大森ワインと鴨料理に舌鼓を打っていました。また、阿部町長、阿部勝行大森町長、佐藤正一郎羽後町長も出席、それぞれ町自慢の味を交換しました。パーティーではシャンソン音楽、大抽選会も行われ、大いに盛り上がりつつありました。このパーティーは毎年同組合が日頃の感謝の気持ちをと、行っているもの。今後も「町特産品」として親しまれることが期待されます。

宿で自治会員が汗



▲同地区では全戸が桜植栽作業を行った

河川公園に桜植栽

十月三十日、宿河川公園旧道に同地区の皆さんによって桜の苗木が植栽されました。植えられた桜の苗木は三十二本。毎年咲き誇る桜の並木を延長し、宿自治会のみならず国道を通行するドライバーの目を楽しませようと実施したものです。作業二日目のこの日は早朝からの作業。宿自治会全戸から参加した自治会員は皆、黙々と作業に励んでいました。小野清幸自治会長は「春に桜が咲くのを楽しみにがんばった。これが宿地区の植樹祭」と話していました。

大正琴の音色に聞き入る



▲香真瑠源先生に感謝の花束が贈呈された

大正琴ミニコンサート

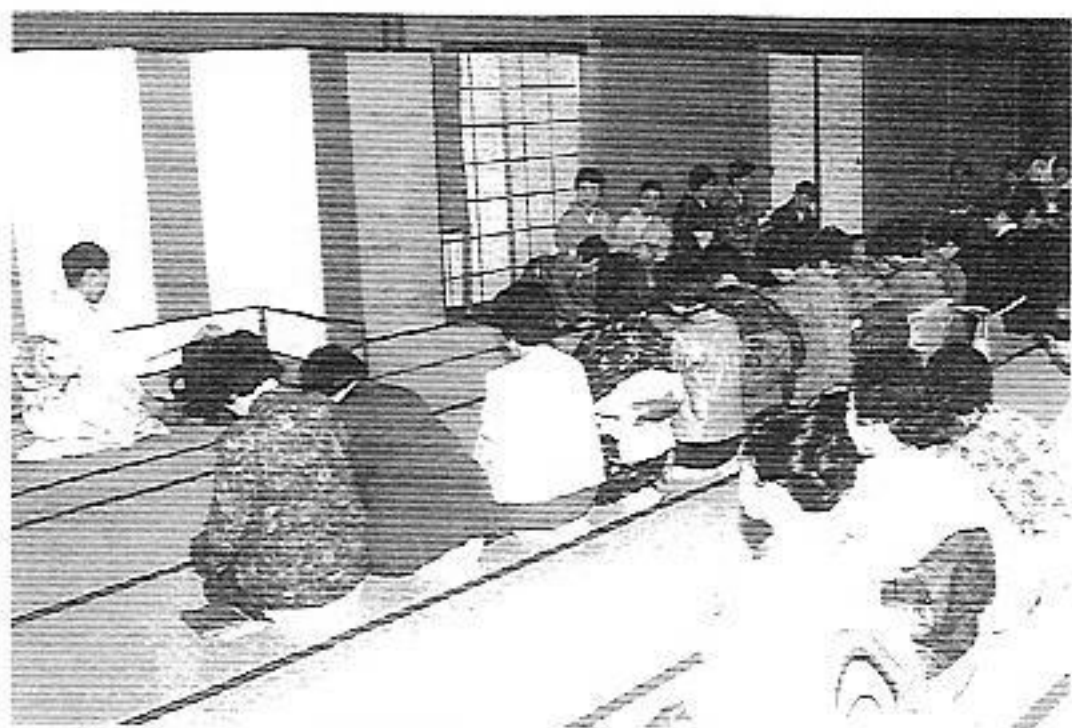
十一月十四日、有鄰館で岡田香真流大正琴香真瑠源先生社中ミニコンサートが行われ、町内外から百七十余名が大正琴の音色を聞き入りました。町内には香真流の教室が二つあり、この日は東由利で初めてのコンサートでした。演奏したのは三十四人（町内十人）の同社中の皆さんで、軍歌メドレーから始まり、五木の子守歌、おぼろ月夜など十四曲を披露、訪れた皆さんは一緒に歌を口ずさみながら秋のひとときを楽しみました。会員の皆さんからは「町でも他の市町村と同じように幅広い年齢層で親しんでほしい」との声も聞かれました。

東由利文化クラブ

町で裏千家お茶会が開催

「君子の交わりは淡くして水の如し（莊子）」という言葉をご存知ですか」と茶道裏千家淡交会秋田支部の五十嵐宗憲さんがまず会の名前の由来について話して下さいました。

茶道裏千家の始まりは遠く安土桃山時代にまで遡るといふことですが、茶人千利休が千家の開祖ですが、裏千家は利休の孫、宗旦が創始したものです。県内では約三千人の会員をかかえる団体であり、日本全国にとどまらず、世界に八十箇所以上の支部があり、お茶を通じ世界平和を願っています。



▲当日行われた濃茶席でのようす

から七百余名が参加しました。

当日は、一階日本間を濃茶席、二階集会室を薄茶席とし、また、特別に湯楽里を香煎席としてお客さまをもてなしました。日本間では一回八十人の席を九回繰り返しました。大きな茶会では、普通は一回で百三十人ほどのお客さまとのことです。余裕がある席になったとのこと。集会室では、八塩小学校の茶道クラブ児童の皆さんが、お茶会を手伝いました。日頃なかなか学ぶことができない茶道の心を児童たちは本格的な席で十分に学んでいました。

「お茶の心はもてなしなんです」と話して下さいしたのは五十嵐宗美さん。「お茶だけではなく道具、お茶、菓子などのしつらえ全体がお茶会。お客さまも、もてなす側も一体になって楽しむものです」。

この日のため一年前から準備を始めたといいますが、当日は社中、元社中の皆さんの協力がなければできなかったとも。「全県から七百名の方が訪れますから、失礼がないように心掛けました」。また「町の自然、会場の有鄰館、その周辺、湯楽里も好評で、たくさんの方に東由利の良さを知っていただけたのではないかと一言」。

茶道の道は静寂閑雅の境地に入り、礼儀を修めるものといえます。これからも茶道を後進に伝えてもらいたいものです。

◆東由利の文芸◆

（せせらぎ句会）

送る荷のすき間につめる柿二つ
採用通知に潤む目がしら冬ぬくし
菊の武者二の丸跡に陣布けり
紅葉散る日々楽しくて淋しくて
十数えあととばす子と日向ぼこ
落葉していよいよ深き山の巖
きのこにも馬喰・孫助銘ありと
桐一葉重たき音を残しけり
瀬に落ちる山栗音をひそませて

子狸の轢かれて貌のあどけなき 久保 高橋 典三
柿干して軒に山風いざなへり 家ノ下 小松 正昭
月の山花野を敷きて座りけり 中通 小松順之助
ふんばって乳呑む仔牛小六月 蔵新田 小笠原亮子
新米の喜び分かつ宅急便 蔵新田 小野 貞子
身にしむやあはれ川視る義民の碑 船木 大庭喜右衛門
動物の絵本ではじまる夜長かな 蔵 阿部 澄子
雪吊りや枝がさかせる縄の華 湯出野 佐藤 正義
落葉焚く煙の陰に父がいる 蔵新田 小笠原トミ
語らずも夫との歳月冬隣 小 倉 遠藤トミ子
腕さすり霜の裏道一まわり 湯出野 小松 徳蔵

先月号小松順之助さんの句「鶯」は「鳶」の誤りです。

冬前のクリーンアップ

十一月六日早朝、JAあきたしんせい農協東由利町支所職員がクリーンアップ作業を実施しました。これは同JAグループが地域環境美化運動の一環として、毎年この時期に行っているものです。

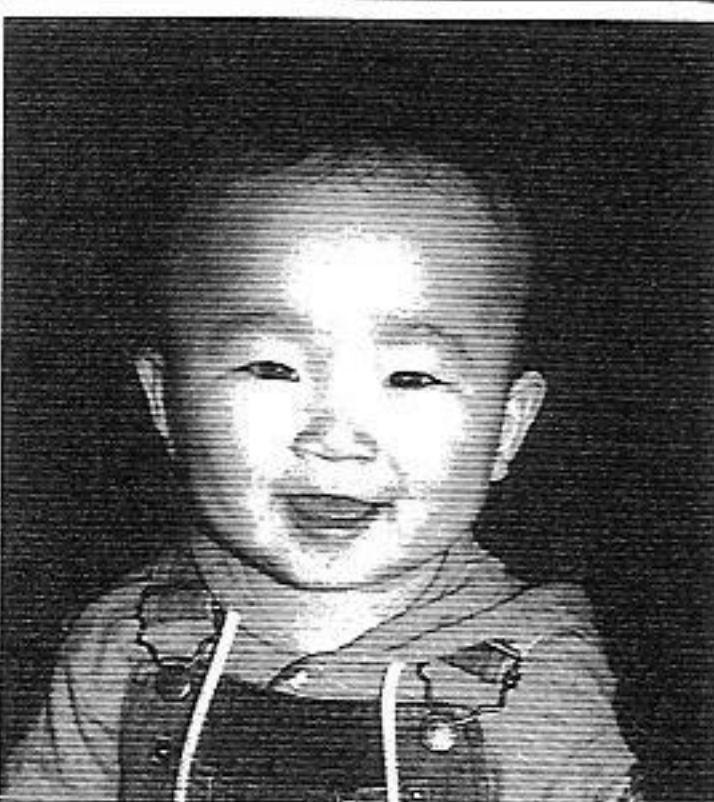
道の駅前の国道一〇七号をはじめ全町五箇所で行われたこの清掃作業、約一時間の作業終了時には、



▲作業に励む職員の皆さん

缶、吸い殻、菓子袋などたくさん集まりました。職員の間は「寒かったが充実した作業だった。少しでも役立てれば」と話していました。

アイドルをさがせ!



小松音仁くん（畑村）
（1歳）
お父さん：英之さん
お母さん：淳子さん
お話し：淳子さん

名前の由来は「慈愛に恵まれ優しく思いやりがある子に、また産まれた時の産声が家に幸せを招いてくれるように思ったところから命名しました」

「人見知りせず、ひょうきんな甘えん坊。髪の毛が特徴で、キューピーちゃんのようなです」

「いつも一緒にいるので私と、特別におじいちゃん（勝男さん）です」

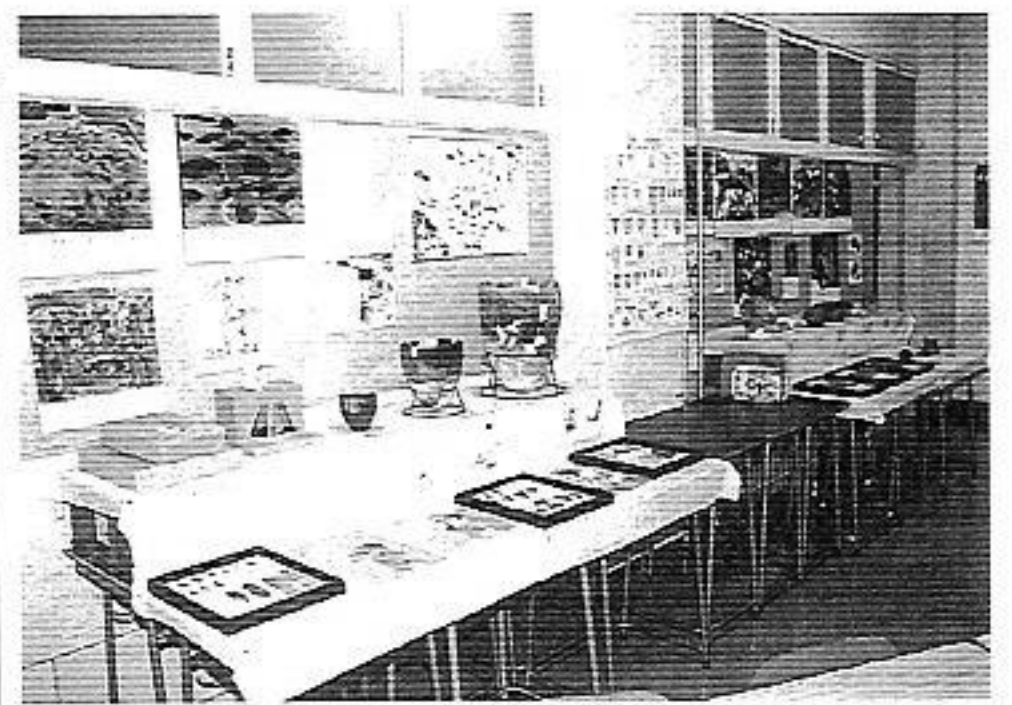
「好きなものは、嫌いなものは、食べ物では納豆、バナナが好き、メロン類が嫌いです。テレビ番組はお母さんといっしょが好き」

最近のエピソード

「狭い場所に入り込むこと、テレビの音に合わせて踊り出すこと」

将来は

「好きな事をやらせたいです」



▲東由利中に設置された展示室

東中民俗展示室

学校創立三十周年記念の一環として同中学校一階の空き教室に町内縄文三遺跡からの出土品を陳列、保管する展示室が設けられました。

専用のガラスケースがないため貴重な出土品は展示していませんが、縄文晩期の土器六十五点等を展示、体験コーナーなどが設置されています。なお一般公開もしていますので、ぜひ足を運び生涯学習の場にしてほしいものです。

佐藤奈々子さん（東中1年）に法人会長賞



▲喜びの佐藤さん

「平成十一年税についての作文」で東中一年佐藤奈々子さん（石高）が社団法人本荘法人会長賞を授賞しました。

最近思っていること

本荘高校下郷分校三年

高沢 智幸さん



先日初雪が降った。この冬が終わりに近づく頃、私たちは卒業を迎えることになる。最近はこの三年間を振り返ることも多くなったが、同時にこれからのことを考えることも多くなった。

来年の四月、私は社会人になるわけだが、私は社会に貢献できる

人間として、特に精神的な自立を遂げたいと思っている。精神的に自立するためには、まず会社に必要な人間として認められるような仕事ができることが第一ではないかと今は考えている。私にとって仕事とは、自分自身の力を試し、自分を生かす最大の場所だと考えるからだ。初めて仕事をすることということもあり、多方面での不安もあるが、精一杯頑張ろうと思っている。

私は高校三年間、主に部活動を通して、粘り強く努力すれば一つのことを必ず成し遂げられるのだということを実感してきた。高校生活で学んだことを生かしながらも、新しい環境で得ることを大事にし、本当の意味で自立した人間になれるように学ぶ姿勢も忘れずに持ち続けていきたいと思う。

最後に一句。
春来れば一人荷物と異郷の地

ふるさと むかしむかし

逃げた白蛇さま

むかしむかし、蔵に「泣き鍛冶」と呼ばれる鍛冶屋さんがいました。笑うときにヒヒヒ・・・と泣き顔になるので、むらのみんなは「蔵むらの泣き鍛冶」と呼んでいました。

ある日のこと、滝山にきのこ取りに出かけた泣き鍛冶は、ぶどう蔓を伝って、ぬるっと出てきた全身まっ白な蛇を捕えました。かねて噂の滝山の白蛇をいけどってきいた泣き鍛冶の評判は高まる一方なのでした。

誰れが智慧をつけたのか、幸せが授かる生き神さまとして、近郷の村々を見せ物まがいになることになりました。ときの村おき山本

の父「ちやといわれる木嶋久太村おきにお願ひし、大きな布に白蛇の絵やご利益など書いていただきました。

箱の中に鎮座？した白蛇さまは、まっ白な体で時折りチロチロ見せる赤い糸のような舌と、赤い目は、何んともいいようのない神秘さがたただようのでした。

生き神さまのご霊験をと、拝み願う村人のおさい銭はたくさん上がりました。夜になって家に帰ると、床下のつぼにチャリーンと異ような音とともにお金を一枚一枚ごとくにヒヒヒヒ・・・と口もとをゆるめるのでした。

このごろは、すっかり本業の鍛冶屋も身に入らず白蛇さまと一緒に村々を回って歩く主人の泣き鍛冶に奥さんもあきれてしまい、子ども達を連れて実家に帰ってしまいました。

こうして何年か経ったある年の田植すぎのこと、どうしたことが大事な生き神さままで逃げられてしまい、蔵むら中大騒ぎなのでした。

誰よりも大あわての



泣き鍛冶は、毎日毎日「神さまやあーい」と一人で探し回ったがどこにも見当たりません。自分の子どものように可愛がった白蛇です。うかないゆううつな日々が続き、そしてある朝、かわいそうにも刀で割腹をした変り果てた泣き鍛冶の姿を見たのでした。お葬式もすみ、ある晩のこと、実家から帰ってきた奥さんや子ども達も、泣き鍛冶愛用の床下を見ることにしました。

床板をそっとあげ、下を見て「あつ」と声をあげました。かさかさに乾いた白蛇の脱けがらが、つぼを守るようにとぐろを巻いていました。しかし、つぼには一枚のお金もありませんでした。お盆間近の笛の音が、そぞろ人の世の哀れを誘うようにもの悲しく流れてくるのでした。

（文と絵 石波力造氏）



郷土の野草

東由利

NO.178

フジバカマ

(キク科)

文・写真 小松忠正氏

北海道以南、中国、朝鮮の原野山地に見られる多年草で、秋の七草の一つです。もともと中国の原産といわれ、奈良時代に渡来したとの説もあります。高さは二メートルにもなり、乾燥すると香気があります。香草として珍重されたといえます。ヒヨドリバナとよく似ていますが、この草は上部の葉は単一ですが、下部の葉は三深裂していること、香気があること、茎に毛がほとんどないことで区別します。

八月、九月、上部の枝先に淡紅紫色の美花をつけます。
(注) 秋の七草はハギ、キキョウ、クズ、ナデシコ、フジバカマ、ススキ、オミナエシ

12月▶データ東由利

〈10/1～/31〉

住民基本台帳人口 () は前月比

- 男.....2,520人 (△1)
- 女.....2,656人 (+5)
- 計.....5,176人 (+4)
- 世帯数.....1,389戸 (±0)

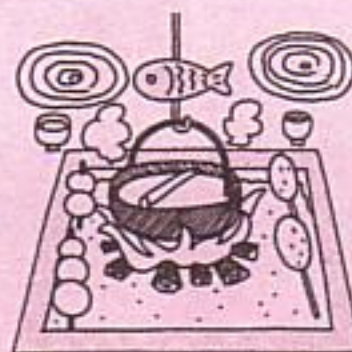
() は1月からの累計

- ・出生4人(27)・死亡3人(54)
- ・転入5人(67)・転出5人(98)

- 火災出動.....0件(6)
- 救急出動.....13件(115)
- 交通事故.....1件(6)
 - ・死亡.....0人(1)
 - ・傷者.....1人(6)
- 飲酒運転.....0人(1)

12月の行事予定

- 7 特設人権相談所(朋楽荘) 10時～3時
- 9 第11回議会定例会初日
- 19 高橋宏幸賞 童話秋田県コンクール表彰式
- 23 天皇誕生日
- 23 手打ちソバ教室(有鄰館)
- 25 小・中学校終業式
- 29 役場御用納め
- 下旬 大平スキー場開き



ほっとひといき

世の中には様々な人がいるとインターネットは教えてくれます。実際日常生活では絶対に知り合えない人々、例えば自分自身でいえば、小説家、音楽家、海外の人、定年退職した人等など、職種も年齢も全く違う人と出会っているわけで、非常に刺激になります。

ただし、待っていてもその機会には訪れないわけで、自分から情報を発信するなど積極的に動かなくてはなりません。多分日常のストレスはほとんどそれで解消されているのかも知れません(さ)

戸籍の窓口

(10月21日～11月20日届出)

●お誕生おめでとう

9/20 草薙菜穂さん(和行) 志津子 新町

10/1 横山颯大さん(純一) 純子 新町

10/1 畠山祐奈さん(英吉) 智恵子 下通

●ごめい福をお祈りいたします

10/26 齋藤ツキヨさん(83) 良悦・母・石高

10/26 小野ハルノさん(92) 順治・母・湯出野

10/30 小松キエさん(83) 東太・妻・板戸

11/3 佐藤昭一さん(72) アイ・夫・新町

11/4 佐々木イチさん(79) 君枝・母・本荘市

11/12 遠藤ハナヨさん(90) 儀市・母・祝沢

11/17 佐藤正一さん(83) リツ・夫・律沢

まごころ

社会福祉協議会に佐藤正義さん(湯出野)、齋藤良悦さん(石高)から芳志が届けられました。また、広報送付謝礼として在京宿小会、小笠原米吉さん(秋田市在住)から金一封が届けられました。ありがとうございました。

輝く未来へ願い込め



▲年長園児により披露された園歌と収録CD

この園歌は、大琴小学校長を務められた鈴木憲一さんが作詞を、息子さんの憲彦さんが作曲をそれぞれ手がけたもの。「21世紀の主役である子どもたちが、すばらしい夢やロマンを求め、輝かしい未来へはばきたいという願いがこめられていく」ということ。園児たちに永遠に愛される歌になりそうです。

みどり保育園歌披露

創立四十周年を迎えた同園で、この度園歌を作り直しました。「風にゆられて」というタイトル通りの明るい元氣あふれる歌です。記念式典では同園年長組により園歌が披露、堂々とした歌に出席者から惜しみない拍手が寄せられました。



11月8日、湯里楽里に新設された陶芸教室が、20余名が参加し、陶芸作品の制作、世界に一つだけの作品作りを楽しみました。

「世界で一つ」の陶芸作品作り